

## かりわたし

北のはずれの内地に  
雁渡し吹く頃  
ロシアから渡ってく  
るマガンの群れたち

ねぐら求めて北風にのり  
天敵から身を守るこの水辺に  
タンチョウ コウノトリと  
一緒になったね  
およそ一年ぶりになるかな

地響きのような鳴き声  
いっせいに飛び立ち  
いくつものへの字を描いて  
夕暮れの中に

百羽のマガンが身を寄せ合う  
つかの間のすみか冬期湛水  
冷たい雪が降ってもかまわない  
土に守られた憩いのひととき

市街で見られない里山  
淡い黒に霞んで見える  
田んぼや畑のあとの向こう  
帯のように連なって広がる

たまに軽トラみつけるだけで  
人の姿は見かけることもない

冬のすみか住みなれぬままに  
別れが訪れ  
日本を離れていく  
マガンの群れたち

ふるさと求めて南風にのり  
新しい家族増やすために  
日本での食事美味しかたかな  
水辺で羽を休められたかな

地響きのような鳴き声  
いっせいに飛び立ち  
一面マダラのように  
青空に溶け込み

6万のマガンが次々飛び立つ  
数千キロ北の極東の国へ  
冷たい風が吹いてもかまわない  
生まれたところにかなうものはない

遠くまで見られる里山  
淡い紺に霞んで見える  
わずかに残る緑の向こう  
少しゆらめいて見える

たまにエンジン聞こえるだけで  
人の気配は感じることもない